



独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization



うれしの

2016.8

第48号

【発行所】
嬉野医療センター
佐賀県嬉野市嬉野町
大字下宿丙2436番地



「多久市 聖光寺」

基本理念

「ひとり一人を大切に」

医療は患者さんの為のものであり、安心して安全な医療の実践が必要である。ひとり一人を大切にすることは、この医療の実践に重要である。この「ひとり一人」は、患者さんのみならず当院に関係する全ての人たちを指し、ひとり一人が大切にされることによって、ひとり一人が周囲を大切にする。このようにして、当院は人命を尊び人格を敬って医療に携わっていくものである。

運営方針

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 迅速で質の高い医療 2 安全で安心な医療 3 地域医療構想に基づく医療 4 患者さんの権利を重視した医療 | <ol style="list-style-type: none"> 5 適切な病院機能の更なる継続 6 経営基盤の確保と新病院建設 7 将来を担う医療人の育成 8 臨床研究と治験による医療への貢献 |
|---|---|

患者さんの権利

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利 2 疾患の治療等に必要の情報を得、また教育を受ける権利 3 治療法を自由に選択し、決定する権利 4 プライバシーが守られる権利 | <ol style="list-style-type: none"> 5 常に人としての尊厳を守られる権利 6 医療上の苦情を申し立てる権利 7 継続して一貫した医療を受ける権利 8 生活の質(QOL)や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |
|---|--|

平成28年熊本地震における**当院の活動**について

救急科・小野原 貴之

平成28年4月14日、16日に熊本県熊本地方を震央とする最大震度7の地震が発生しました。近隣の熊本県でこのような災害が起き、他人事とは思えない感情を抱いた方は少なくないと思います。災害がいつ発生するのか本当にわからないものであると改めて痛感しました。

当院は地域災害拠点病院に指定されており、平成28年熊本地震を通して様々な医療活動を行いました。まず発災直後の4月15日に災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team；DMAT）の第1班を派遣し、その後計3班を派遣しました。DMATとは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されています。平成7年1月に起きた阪神・淡路大震災では初期医療体制の遅れがあり、平時の救急医療レベルの医療が提供されていれば救命できたと考えられる「避けられた災害死」が約500名であったと報告されました。そのためこの教訓を活かしてDMATが発足された経緯があります。当院DMATの活動は主に病院間患者搬送、巡回診療を行い、第1班、第2班は熊本市内、第3班は南阿蘇村で活動しました。

また災害医療においては被災地域だけでは医療を完結できないため、重症患者は広域搬送を行います。当院でも4月16日に広域医療搬送の患者受入を行い、計9名の患者を受け入れました。このような広域医療搬送に対応することも地域災害拠点病院の重要な任務の一つです。



また当院は国立病院機構の活動の一環として本震直後より初動医療班を派遣し、熊本医療センターでのトリアージ活動、避難所での救護所設置、巡回診療を行いました。トリアージとはいわゆる「ふるい分け」であり、災害時の限られた医療資源で、最大多数に最善を尽くすために重症度を把握し、治療の優先順位をつけます。トリアージは短

時間で多数傷病者の重症度を把握しなければならないため、日頃からの訓練の大切さを再認識しました。避難所での救護所設置や巡回診療では、多数の被災者の方々が救護所を訪れました。体調不良や怪我はもちろんのこと、慢性疾患の管理や精神的なケアの必要な方が多数おられ、心理的サポートの重要性を強く感じました。

さらに当院小児科、看護部、臨床検査部は現地の診療支援を目的として現地での医療支援活動を行い、臨床検査技師は深部静脈血栓症の早期発見のために下肢静脈エコー検査を実施しました。またメディカルソーシャルワーカーを派遣し、避難所での情報収集に参加しました。

当院は平成28年熊本地震を通じて様々な職種が現地に赴き、診療支援を行いました。災害はいつ、どこで起きるかわかりません。「備えあれば憂いなし」であり、当院でも災害訓練を通じてより一層知識、技能の習得が必要と考えられます。

熊本地震 初動医療班派遣を経験して

嬉野医療センター 薬剤部 貞松・晃



国立病院機構初動医療班とは、災害急性期(主に発災後 48 時間以内)に情報収集をしつつ避難所等における医療救護活動を開始し、後発医療班の支援活動の立ち上げに寄与するために構成された医療班です。班構成は医師 1 名、看護師 2 名、薬剤師 1 名、事務 1 名の計 5 名となっています。皆様も御存知の通り今年 4 月、熊本県熊本地方にて大規模な地震が発生しました。4 月 16 日未明の本震と呼ばれる地震の発生後、翌朝に当日の出発が決定し、活動期間は 4 月 16 日～19 日の 4 日間でした。急な出発ではありましたが院内で多くの職員の方々に必要

な物資の準備を手伝っていただき、当院の公用車で 14 時頃熊本医療センターへ向け出発しました。

実際の取り組みとして、1 日目は熊本医療センター到着後、医師 1 名、看護師 2 名はトリアージポストの任務にあたり薬剤師 1 名、事務 1 名は現場本部指揮所にてクロノロ作成等を行いました。ここで少し国立病院機構対策本部とこちらで双方の捉え方の違いが生じ、本来国立病院機構対策本部に指示を仰ぐべきところを DMAT 本部からの指示を仰いでしまい、到着した日の翌朝 6 時まで任務にあたる形になりました。そのため 2 日目は緊急時のみの対応となりそれまで待機との指示でした。

3 日目は避難所である桜木東小学校に救護所を設置し医療支援を行いました。既に 1000 人以上の方が避難されており当日救護所が設置されるという情報が LINE 等で広まっていたこともあり 10 時～15 時の間で 45 名の方が受診されました。緊急を要する外傷患者より、持病患者の診察が多く常用薬切れの薬剤の処方希望等も多々ありました。私は主に診察を待たれている方の常用薬を事前に確認し医師に情報提供すること、処方された薬剤の薬効、用法・用量、副作用を説明し投薬することを行いました。多忙で慣れない環境下でしたが普段の調剤業務、病棟での薬剤管理指導、持参薬確認等の経験のおかげで思った以上にスムーズに任務を行えたことは良かったと思います。

4 日目は指定された地域の避難所の医療ニーズの把握を行い、国立病院機構本部へ引継及び連絡、その後帰院となりました。

最後になりますが、今回の活動で私の日常業務が少しでも被災者の方々の役に立つことが出来て嬉しく思います。初動医療班の他のメンバーの方々に助けられながら 4 日間活動することが出来ました。ありがとうございました。



熊本地震災害派遣に参加して

臨床検査科 中島哲也、小田繁樹、武藤憲太

日本臨床衛生検査技師会（以下日臨技）は、日本循環器学会と協力し、4月23～30日に被災地熊本へDVT（深部静脈血栓症）検診のための技師派遣を行いました。また5月3日～5日は「がまだせ（がんばろう）熊本ブルドーザー作戦」と名付けたエコノミークラス症候群のフォローアップ検診が実施されることになりました。当院には、2日に日臨技より派遣の依頼が入り、私を含め3名（小田、中島、武藤）で5月5日に支援に行くこととなりました。当日朝5時病院に集合し、佐賀駅からJRを使い熊本へ向かいました。集合場所の熊本保健科学大学には、全国の技師が支援のため集まっていました。

このフォローアップ検診には超音波診断機器24台、POCT血液検査測定装置（D-ダイマー）17台、スタッフ移動車両約20台（うち検診車2台）が用意され、5月3日～4日は約100名、5日は約70名のスタッフで検査を行いました。

支援場所は6カ所、1グループ20～30名程で、私達は熊本市総合庁舎での活動となりました。現場ではまず医師、看護師たちと合流し、医療チームを作りました。避難所となっている熊本市総合庁舎にはたくさんの被災者の方がいらっしやり、検査を行える十分なスペースがなく、場所の確保から始めました。狭いスペースでしたが、問診、採血、血圧およびSpO₂測定、エコー機器4台での検査、弾性ストッキング説明などを行いました。その後、移動車に機器と備品を詰め込み、小さな避難所など2カ所往診しました。

この3日間の「がまだせ（がんばろう）熊本ブルドーザー作戦」の検診受診者は387人、うち67名にD-ダイマーを行い、DVT予防として弾性ストッキングが552人に配布されました。4月23日以降、今回の活動を含め、被災地のDVT検診受診者は、約1000人に上りました。

今回参加し感じたことは、活動マニュアルは存在したが、現場では何を行っていいかわからず、右往左往状態だったということです。また検査する場所の確保が十分とはいえず、避難所によっては屋外での検査となり、そのため検査時間も大幅に延長しました。被災地という過酷な状況ではありますが、マニュアルの徹底と臨機応変な対応を両立し、無駄のない迅速な支援活動を行うことの大切さと難しさを痛感いたしました。

またこのDVT検診は、DMAT活動のように迅速に取り組む活動ではなく、車中泊や避難所での生活期間が続いた場合の検査であり、いつ頃から検診を始め、またいつまでフォローするかということが、今後の課題として挙げられました。

しかし今回の活動に参加することにより、少しでも被災者の方から深部血栓の疑いを発見できた事は、技師として良い経験をさせていただきました。これからも、支援援助依頼があれば率先して参加したいと思いました。

がん患者と家族の会

臨床心理士 佐藤美紀

お茶々サロンってなあに？

平成24年11月、嬉野市では初のがんの患者サロン「がん患者と家族の会（お茶々サロン）」が当院で立ち上がり、以後年に6～7回お茶々サロンを開催しています。当院のお茶々サロンは、患者さまとそのご家族が抱える思いを分かち合い、気持ちを和らげるきっかけ作りの場となることを目標にして設立しました。また、地域がん診療連携拠点病院の役割の一環として、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカー、認定看護師、臨床心理士などの当院の専門職によるわかりやすい勉強会を企画し、がんに関する情報提供も行っています。

今年度は、「社会保障制度」、「感染予防」、「治療前後の栄養」、「化学療法

の副作用対策」について勉強会を開く予定です。それだけではなく、茶話会や季節のお花作り（ペーパーフラワー）など楽しい企画も準備しています。そして、今年度、初めての企画として平成28年9月16日（金）に、爪の変化や眉毛・まつ毛の脱毛、皮膚の色素沈着にお悩みの方を対象として、「ハンドネイルケア、メイクレッスン」を企画しています。これは、「アピアランスケア」と言われるものです。

“アピアランスケア”とは、がんの治療に伴う外見の悩みに対処して、あなたらしさを支える支援のことです。外見のお悩みや不安のある方であれば、年齢、性別は問いません。現在、治療中でお悩みの方、これから治療を受ける方、脱毛（毛髪・眉毛）に悩む男性の方もお気軽にどうぞ！ウィッグコーナーも用意しています。



感染予防の勉強中！
手のひらにある菌を確認しています

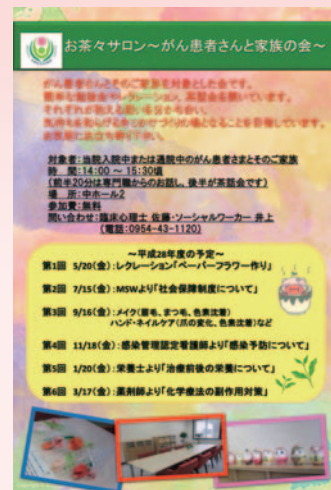


専門スタッフが相談をお受けします

9/16（金）の患者会に参加ご希望の方は、
外来の患者さま…外来、外来治療センター、相談支援センター等にあります申し込み用紙にご記入頂き、内科外来受付もしくは外来治療センターの看護師にお渡しください。事前の予約をお願いします。

入院中の患者さま…病棟の看護師にお声かけください。

* 9/16（金）以外の回については申込みは必要ありません。
初参加の方も是非お気軽に参加してください。
皆さまとお会いできますことをお茶々サロンスタッフ一同、お待ちしております！！



患者さんの作品です



ヨガでリラックス♪

独立行政法人 国立病院機構 嬉野医療センター附属看護学校

平成28年度 ナイチンゲール生誕祭



平成 28 年 5 月 25 日、本校体育館でナイチンゲール生誕祭を実施しました。1963 年から続いており、今年で 53 回目となります。2 部構成としており、前半にナイチンゲール像に献花を行い、ナイチンゲール誓詞を学生・職員で斉唱しました。後半には、シンポジウム形式で“地域とのつながり”のテーマのもと発表会、意見交換会を行いました。生誕祭終了後は、本校の母体病院である嬉野医療センターの各病棟へ白バラをお届けし、患者様、病棟スタッフの皆様喜んでいただきました。



献 花



ナイチンゲール誓詞斉唱

今年度、嬉野医療センター附属看護学校に赴任して初めての学生自治会行事に参加させていただきました。古き良き伝統が受け継がれていく中に自分も参加出来たことに大変感銘を受けました。ナイチンゲール誓詞を斉唱する際、私自身も初めてナイチンゲールの看護覚え書きを読んだときのことを思い出し、看護師を目指した初心に帰り、現在の自分を見つめ直す機会となりました。

後半のシンポジウムでは地域という視点に基づき各学年で発表、意見交換を行いました。今後は看護学生としてボランティア活動に参加し、地域に貢献できるよう努めてまいります。私自身、佐賀・嬉野について知る機会になり大変勉強になりました。私自身も積極的にボランティア活動等参加していきたいと思っています。

今すぐできる活動として、看護学校では学生自治会を中心にエコキャップ運動を始めます。ペットボトルキャップ約 800 個で 1 人分のポリオワクチン代相当になります。ぜひご協力をお願いします。

文責：看護学校 教員 西田広美



部門紹介

リハビリテーション科

リハビリテーション科 副理学療法士長 村上寿一

リハビリテーション科は「必要な時期に、必要なリハビリを！！」を基本理念に基づき、H28年度は、1. 適した時期に質の高いリハビリの提供、2. 地域に即した連携の充実、3. 将来を担う後進の育成を目標に掲げています。スタッフはPT 8名、OT 3名、ST 1名、事務助手1名の計13名で日々の業務に取り組んでいます。

昨年度の業務実績は、新規依頼が2,351件、平均年齢は73歳（中央値77歳）でした。累計で実施件数が36,951件、取得単位数が48,628単位で、疾患別リハビリでは運動器が51%、脳血管が27%、心大血管・呼吸器が各11%、がんリハが1%という割合でした。各疾患において十分なリスク管理のもとリハビリ入院による在院日数長期化を減少させるため急性期リハビリを実践し、可及的早期に離床を図っております。しかしながら、1実施当たりの単位数ではPT：1.33単位、OT：1.32単位、ST：1.19単位となっており、通則での患者1名につき1日6単位、厚生労働省が定める患者（例えば脳梗塞や大腿骨頸部骨折など）については1日9単位算定できることを考えると十分な介入はできておらず、急性期における患者のアウトカムに効果的なリハビリの提供量としては不十分でした。

リハビリの効果としては、平成26年8月から取り組んでいます当院独自の「嬉野式ADL評価表」を活用してある程度の転帰予測をし、学会等で一定の評価を得ましたが、他の標準化された評価方法との比較検討を行っていないため、今後は標準化されたツールにより、対象者の現在状況だけでなく、経時的変化や予後予測を客観的に明確にしていきたいと思えます。

最後に今年度は7対1病棟における「看護必要度」の基準見直しなどもあり、カンファレンスをこれまで以上に活発にさせていきたいと考えており、さらに医師やコメディカルスタッフの方々との連携も積極的に取り組み、患者様のためにチーム医療を推進して頑張りたいと思います。



リハビリテーション科スタッフ

放射線科

放射線科 撮影透視主任 木須康太

放射線科の目標は、安全で質の高い検査及び高度な放射線治療の提供、他職種との連携を図りチーム医療に参画、研究会や学会発表を通じての人材育成、新病院への参画、の4本柱の目標を立てています。全員で協力、団結して目標を達成するため日々努力しています。

人員構成は、画像診断医師3名、放射線治療医師1名、放射線技師16名、看護師6名、放射線助手2名、医師事務2名の計30名で日々の診療業務を行っています。また、装置・設備は大学病院に匹敵する設備を備えており、IVR（血管内治療）や放射線検査、画像診断は、24時間体制で救急患者に対応できるように当直体制で勤務しています。

次に当院の装置の特徴、検査の内容などを簡単に説明します。一般撮影は、最新のデジタル撮影装置を導入しており、画質の向上と被ばく低減を図っています。マンモグラフィー装置は、九州で数台しか稼働していない最新鋭装置です。高画質の提供とトモシンセシスという技術により、以前まで鮮明に描出できなかった腫瘍をはっきり描出することが可能となりました。また、高性能CTにより、心臓の血管を含めた体の全ての血管を鮮明に描出できます。これにより、血管造影検査をしなくても診断できなかった疾患が低侵襲の検査で分かるようになりました。放射線治療においては、前立腺がん、肺がんなど、癌だけを標的に治療し、正常組織のダメージを少なくする高度な放射線治療を行っています。このように、放射線科では、最先端の装置で高度な診療、検査を行っています。

最後に、スタッフについて紹介します。画像診断医師3名、放射線治療医師1名で多くの検査、放射線治療に対応しており、患者数に対し医師の数が少ないのが現状で、夜遅くまで奮闘しています。放射線技師の半数は20歳代と若い構成となっていますが、当院の放射線技師は多くの専門資格を取得しており、高い技術を備えています。放射線科では人材育成が急務となっています。そこで、定期的な勉強会の開催、学会への研究発表など学術研修を積極的に行っており、お互い切磋琢磨して知識、技術を習得しています。看護師は、心カテ・血管造影・CT・MRI・放射線治療等の介助、検査時の患者管理などを行っています。放射線科医師や放射線技師と連携しコミュニケーションを図りながら治療、検査がスムーズに行えるよう業務しています。医師事務や放射線科助手は、超音波検査時の患者介助や放射線科受付での患者案内、電話対応等患者さんに親切丁寧に対応しています。また放射線科では定期的に飲み会やリレーションなども企画してスタッフ間のコミュニケーションを図っており、とても明るく、遠慮せず何でも言える風通しの良い職場です。何か質問等ある方はどんなことでもいいので気軽に放射線科スタッフまでお尋ねください。



放射線科スタッフ



症例検討会風景



放射線科親睦会風景



当院もfacebookが
あります！
ぜひご覧ください！



編集後記

今回から各部門の紹介記事を掲載します。

他の記事数にもよりますが、毎号1～2つの部門の紹介を予定していますので、みなさん、存分にアピールしてください！

(編集員一同)